

# JICAにおける自動車整備士育成 これまでの取り組みと今後

2022年3月3日

JICA社会基盤部運輸交通グループ

JICAとは

# JICAの取り組み

## 【人間の安全保障】

すべての人が、生命や生活を脅かされることなく、尊厳を持って生きられる社会を目指します。



People

誰もが健康で、安心して暮らせる社会のために

- 教育
- 保健医療
- 社会保障の充実



Peace

恐怖や暴力のない、平和で公正な社会のために

- 紛争が発生しない国づくり
- 法制度整備支援
- ジェンダー平等の推進、女性・女子のエンパワーメント

## 【質の高い成長】

自然環境をそこなわず、格差の少ない持続的な成長を目指しています。



Prosperity

豊かで自然と調和する経済、社会の進展のために

- 農業・農村開発
- 民間セクター開発
- 都市・地域開発
- クリーンで安定したエネルギーの確保
- 運輸交通基盤の整備



Planet

地球環境を守るために

- 持続的な資源管理
- 自然環境の保全 環境管理
- 水資源の確保と供給
- 防災

● 中東・欧州  
・北アフリカ



協力実施国・地域 **27**カ国・地域

事業規模 **1,227** 億円

人や組織の育成支援（技術協力）  
資金面での支援（資金協力）  
ボランティア派遣（海外協力隊）  
市民（NGO、学校、自治体）・  
民間企業による国際協力の支援



● 東・中央アジア

協力実施国 **10**カ国・地域

事業規模 **1,984** 億円



● 中南米

協力実施国 **32**カ国・地域

事業規模 **579** 億円

● アフリカ(サブサハラ)

協力実施国 **49**カ国・地域

事業規模 **1,851** 億円



● 南アジア

協力実施国 **8**カ国・地域

事業規模 **6,926** 億円

● 東南アジア・大洋州

協力実施国 **24**カ国・地域

事業規模 **4,680** 億円



(注)地図中の事業規模金額には、地域別に分類できない協力実績は含まない

# 組織概要



海外拠点

**96** 力所



国内拠点

**14** 力所



職員数

**1,929** 人



援助対象

**150** 力国・地域

外国人材



Why JICA?

# 「選ばれる日本へ」

## 外国人材の受入れ・共生社会の実現にむけて

日本の生産年齢人口(15~64歳)が急激に減少する一方、2019年10月末の外国人労働者は165万人と過去最高を記録(厚生労働省)。しかし、今後はアジア諸国でも高齢化が加速する。長時間労働や人権侵害など、外国人労働者に関して様々な問題が顕在化する中、今後も働く場として外国人にわが国は選んでもらえるのか。法務省出入国在留管理庁の佐々木聖子長官と、国際協力機構(JICA)の北岡伸一理事長が、外国人材の受入れと共生社会の実現をテーマに対談した。



国際協力機構 (JICA)  
北岡 伸一理事長



法務省 出入国在留管理庁  
佐々木 聖子長官

### 外国人に寄り添った仕組みと環境 能動的に変化していくことが大切

**佐々木** 日本では長い間、専門的・技術的な外国人材は積極的に受け入れる一方、それ以外は国民のコンセンサスを待たずで考えていくという方針を続けてきた。それが特区制度を活用した家事支援人材や、国内の建設需要に対応するための労働者の受入れなど、より幅広い人材を受け入れるように変化してきた。2018年12月には、入管法の改正で在留資格に「特定技能」を創設し、資格範囲を拡大した。また昨年4月に出入国在留管理庁が誕生し、外国人の在留支援と外国人の受入れ環境の整備を新たに行政機能として追加した。入り口と、受け入れた後の日本社会の在り方まで総合的に考えていくことが、いま私たちに求められている。

**北岡** 特定技能制度ができた。出入国在留管理庁が創設されたことは画期的である。1980年代から外国人労働者をもっと

受け入れるべきだと言ってきたので、やっと動き出したと感じる。日本もかつて移民を送り出す国であった。当時から、貧しい移民から搾取する悪質なブローカーが存在した。こうしたことはあってはならないが、日本に来る外国人の中にも、出身国でそうしたブローカーから借金をしてきて、身動きが取れなくなる人がいまだに存在する。

**佐々木** 求められているのは外国人に寄り添った仕組み作りと環境作りだ。しかし、以前の出入国管理行政の仕事にはなかった感覚・意識が必要であり、チャレンジングな使命であると感じている。とはいえ、私たちには先遣がある。外国人を住民として受け入れてきた地方自治体の存在だ。中南米を中心に日系人を多数受け入れてきた自治体など、先遣が積み重ねてきた苦労とノウハウを、私たちはいま学んでいるところだ。私たち出入国在留管理庁はもちろんだ。日本社会全体が、外国人とともに幸せになれる共生社会に向け、きちんとした展望を持つた上で能動的に変化していくことが大切だ。

### メニューをそろえた総合的対応策 JICAの強みを生かす

**北岡** 多様性は力だと私は思っている。新しい発想は閉じた社会からは生まれにくい。その意味でも、多様な人々に日本へ来てもらうことが重要だ。しかし、高度経済成長期とは異なり、世界における日本の経済的な存在

は低下し、途上国との格差も縮まっている。韓国や中国はもちろんだ。東南アジアでもフィリピン以外の国では少子化が始まりつつある。そうした中で今後、日本は外国人に選ばれる国になれるだろうかという切実な

懸念がある。ホストになる人、外国人の現場で活躍だ。佐々木 7 入れ・共生の議で改訂された。共生の策」には、今9-1の施策がだし、現状で本社会といえの話を、外甲する家の、心地の話と、考えていく必要の受入れ環境

### 動き始 国際交

**北岡** 先日 外国人材を留 RESC)を所のイメージン明るくて機働た。本来、行じて設置運営いったん組織化してしまおう RESCは復力所に集め一カ所に集めに際してワンできる体制を感心した。

### 佐々木 多

が結果できて、来たときに切応ができる。る社会インの一番地の重 RESCを今サせていく考えり添うのが新冒頭で申し上げ海外協力隊イメージとし情に通じ、コちであり、専いをしてもらる。活躍の場

### 日本社 バック

**佐々木** 外 共生社会の在まに日本社の一節をな感えた人の動

# 信頼の基礎となる人と人との つながりの構築

JICAは、専門家や海外協力隊を途上国へ派遣するとともに、途上国から行政官や技術者などの研修員や留学生を日本に受入れています。人材育成を通じた人と人とのつながりは、途上国と日本の信頼の礎です。

## 受入れ

研修員・留学生  
(累計約65万人以上)

13,217 人  
(2019年度)



## 派遣

専門家・JICA海外協力隊  
(累計約25万人以上)

9,162 人  
(2019年度)

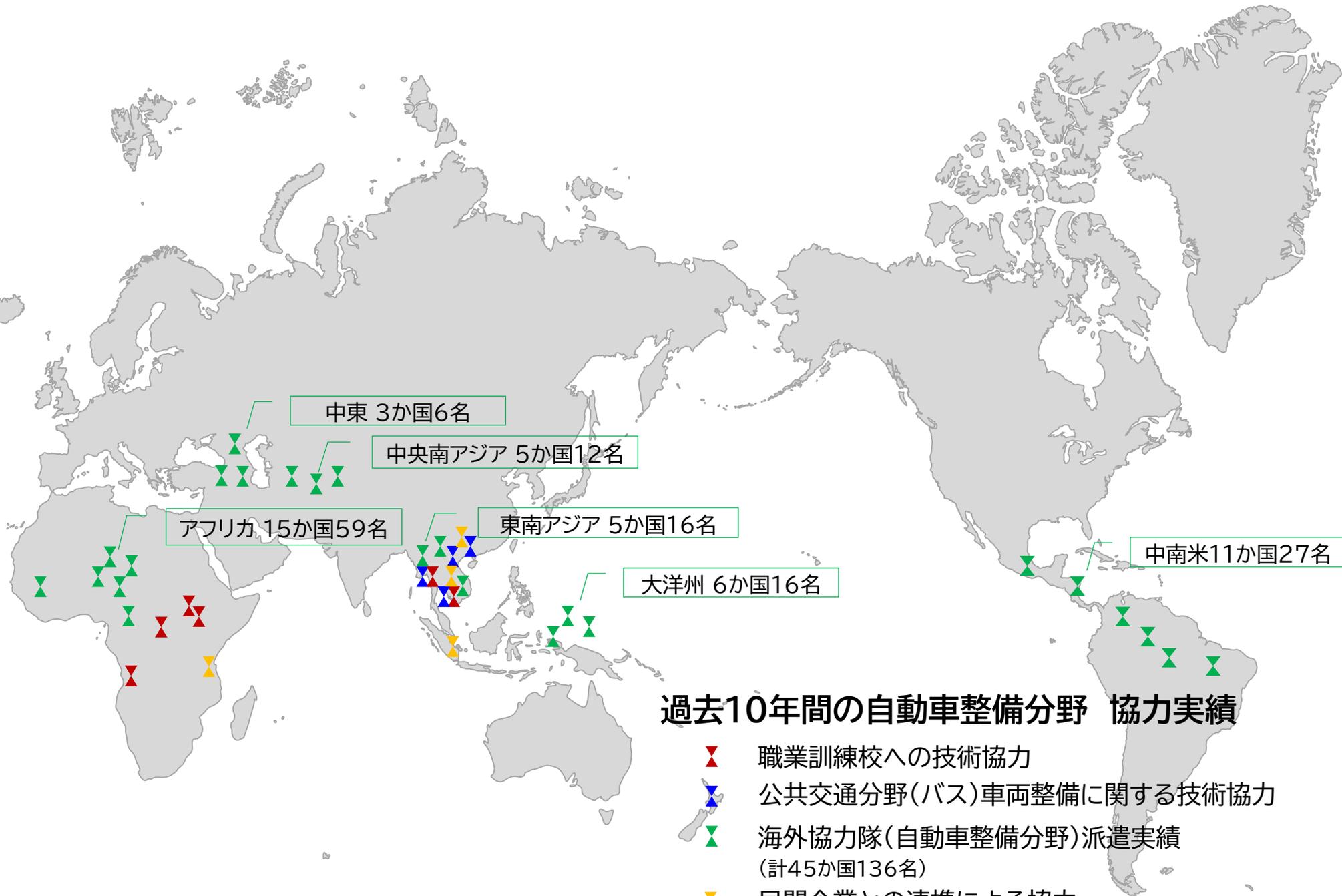
自動車整備 → Why JICA?



途上国の整備士ニーズ



JICAのノウハウ・経験の蓄積





## ミャンマー TVET質的向上プロジェクト

※TVET=職業・技術教育訓練（日本ミャンマー・アウンサン職業訓練学校）



# ウガンダ 産業人材育成体制強化支援プロジェクト

(ナカワ職業訓練校)

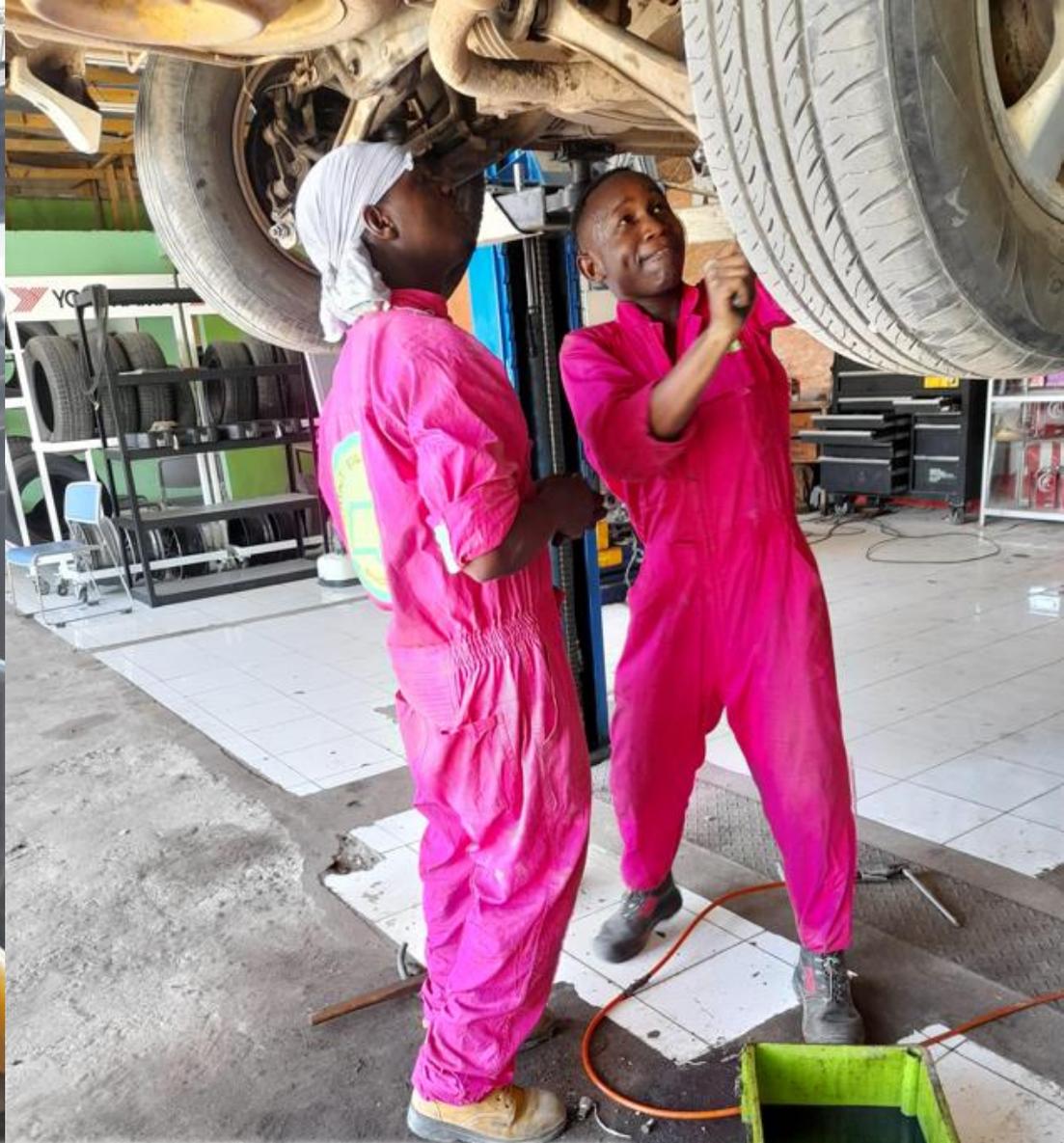
# カンボジア プノンペン公共バス運営改善プロジェクト (プノンペンバス公社)





カンボジア 認定自動車整備士養成e-Learning  
プログラムの導入に関する普及・実証事業

(プノンペンNPIC職業訓練校 有限会社大光サービス・リネットジャパングループ株式会社)



タンザニア「自動自動車整備事業の実績に基づく自動車整備士育成と整備工場網構築のための案件化調査」  
(セントパーツ株式会社)



インドネシア「南スラウェシ州バンタエン県バンタエン職業  
訓練校における自動車整備士指導者養成プロジェクト」

(愛媛県・愛媛トヨタ株式会社)

「国際協力もいいけど国内もどうにかしてほしい。」

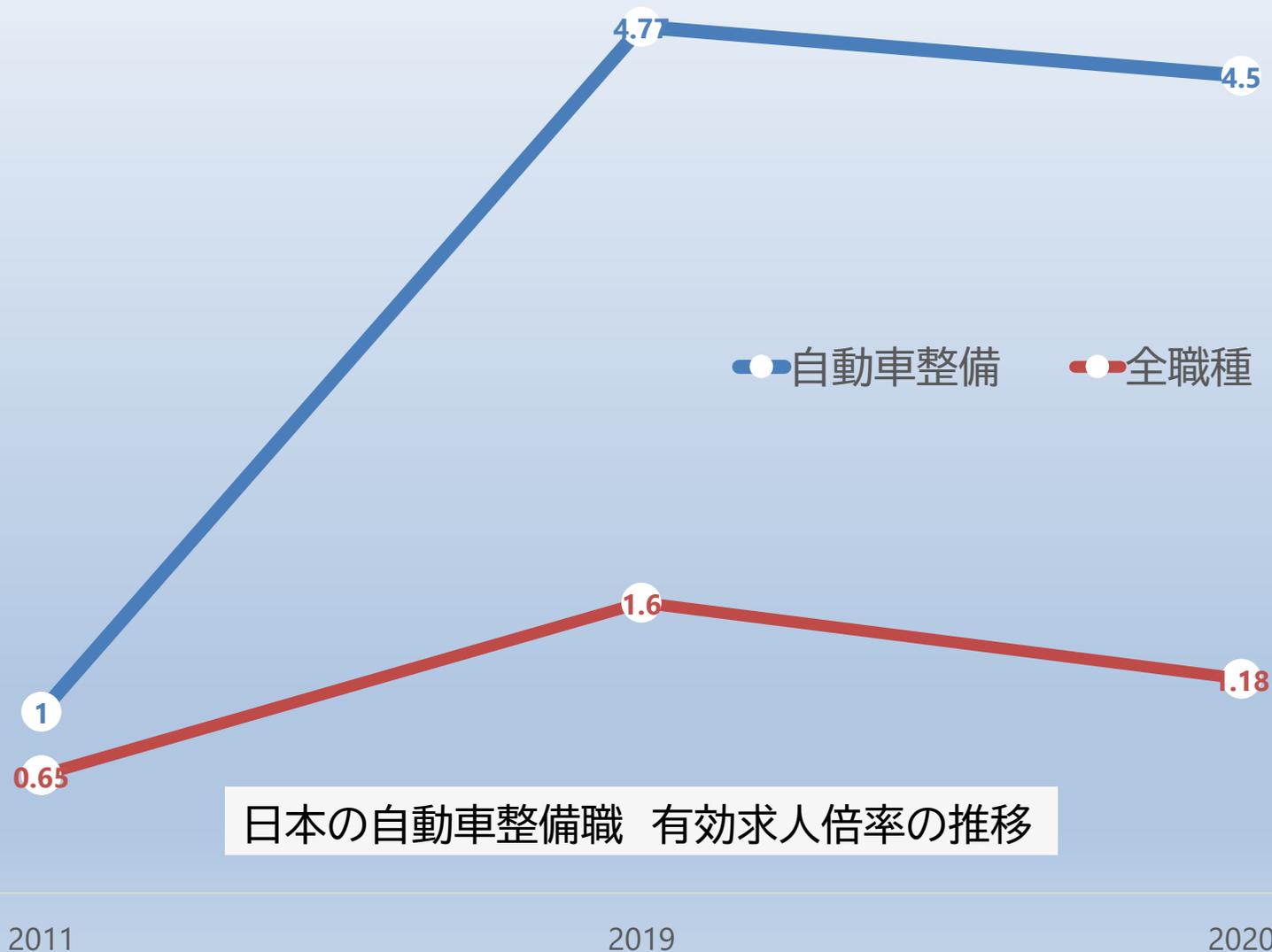


双方Win-winの状態に  
持っていけないか。



JICA事業への日本の協力事業者の声

# 日本国内の状況(後継者不足、人材育成)



日本の自動車整備職 有効求人倍率の推移

JICA自動車整備分野の取組

～これから～

# 自動車整備分野 外国人材育成・還流サイクルに向けた環境整備

## ●現地教育の強化

## ●帰国後の現地での就労環境整備

現地



教育された人材の輩出

「JICA研修」の機会提供



現地の車両保守管理制度の整備

「整備士」の認知向上



日本



●受入れ事業者側の負担軽減

●外国人材のキャリア形成

各種教材の整備

●国内での連携強化

車両メーカー

関連事業者

関連機関・団体

教育機関

監理団体

# 責任ある外国人材受け入れ 「自動車整備分野」JICAの支援メニュー全体像

【自動車整備分野における主要課題】

①国内業界の旗振り役の不在

②外国人材側のインセンティブの低さ

③受入れ事業者の負担の大きさ

来日前

<優良人材の供給体制強化支援>

日本滞在中

<「第三の開国」に向けた共生社会構築支援>

帰国後

<途上国への開発支援>

①国内での連携強化

制度面での検討・提案

責任ある外国人労働者  
受入れプラットフォーム

外国人材の活用・育成をめぐる事例共有・  
課題共有・情報発信

国内連携勉強会

③現地教育の強化

自動車整備技能育成の共通テキスト、カリキュラムの整備

各種調査等

②外国人材帰国後の就労環境整備

整備技能取得後のキャリアプラン検討

各種調査等

②「自動車整備職」の魅力底上げ

「整備士資格」の認知向上・PR教材

各種調査等

③受入れ先側の準備

本邦自動車整備士OJT研修(プレ技能実習)

JICA研修事業

②外国人材のキャリア形成支援

外国人材向け整備士資格取得のための補助  
教材整備

各種調査等

自動車整備事業者への就職支援・マッチング

民間連携事業

国際協力推進員

現地教育訓練機関への支援・連携

技協・民間連携事業

専門家派遣

海外協力隊

送り出し機関への支援

海外投融資

1級整備士養成課程(専門学校)への留学

長期研修

途上国の車両保守管理制度の整備

(車両認証制度、整備事業者認証制度、  
車両登録システム)

技協

短期

中期

長期

# 新たな取組としてJICAが行うもの

【自動車整備分野における主要課題】

①国内業界の旗振り役の不在

②外国人材側のインセンティブの低さ

③受入れ事業者の負担の大きさ

来日前

<優良人材の供給体制強化支援>

日本滞在中

<「第三の開国」に向けた共生社会構築支援>

帰国後

<途上国への開発支援>

①国内での連携強化

制度面での検討・提案

責任ある外国人労働者  
受入れプラットフォーム

外国人材の活用・育成をめぐる事例共有・  
課題共有・情報発信

国内連携勉強会

③現地教育の強化

自動車整備技能育成の共通テキスト、カリキュラムの整備

各種調査等

②外国人材帰国後の就労環境整備

整備技能取得後のキャリアプラン検討

②「自動車整備職」の魅力底上げ

「整備士資格」の認知向上・PR教材

③受入れ先側の準備

本邦自動車整備士OJT研修(プレ技能実習)

現地教育訓練機関への支援・連携

技協・民間連携事業

専門家派遣

海外協力隊

②外国人材のキャリア形成支援

整備士資格取得を目指す外国人材向け補助  
教材整備

自動車整備事業者への就職支援・マッチング

民間連携事業

国際協力推進員

送り出し機関への支援

海外投融資

1級整備士養成課程(専門学校)への留学

長期研修

途上国の車両保守管理制度の整備

(車両認証制度、整備事業者認証制度、  
車両登録システム)

技協

短期

中期

長期

# 新たな取組としてJICAが行うもの

2022年4月～(予定)

「自動車整備分野における外国人材育成及び還流サイクル確立のための環境整備に関する情報収集・確認調査」

母国の就労環境は？

何をモチベーション  
に来日？

自動車整備分野での就労をする・  
志望する外国人材の実態調査

将来は何をしたい？

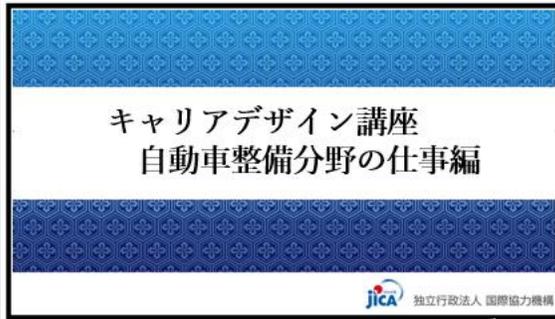
帰国して何をしている？

外国人材の自動車整備技能取得後の  
キャリアプラン形成に向けた課題分析

外国人材に向けた「自動車整備士」の  
認知向上・PRツール作成

外国人材のキャリア形成のための  
補助教材作成

# 教材のご紹介



キャリアデザイン講座  
自動車整備編 準備中！

本教材を学習してわかること

- ✓ 自動車整備分野の仕事の魅力
- ✓ 自動車整備分野の仕事の概略
- ✓ 自動車整備分野の仕事への適性
- ✓ 自動車整備分野の仕事でのキャリアデザイン

あんぜん マニュアル  
トラック・バス編



安全衛生教材  
トラック・バス編 準備中！

自動車整備安全衛生教材  
日・英・柬・越・緬語版 完成！

誇り高く！  
にほん じどうしゃせいび  
日本で自動車整備に  
じゅうじ うえ たいせつ  
従事する上で大切なこと



2021年6月  
JICA中部

JICA 独立行政法人 国際協力機構  
Japan International Cooperation Agency

日本語版

ほんしよ べんごごきごうい きんこうふやくばん  
本書は現地語教材の参考用和訳版です

# 今後はJICA HP上で新着情報を発信予定

文字サイズ [標準](#) [大きく](#) English Français Español

独立行政法人 国際協力機構

・ サイトマップ ・ よくある質問 ・ お問い合わせ

Google 提供

国際協力に参加したい方 NGOの方 研究者の方 メディアの方 企業の方(民間連携) 投資家の方 [サイト活用ガイド](#)

ホーム JICAについて 事業・プロジェクト 各国における取り組み ニュース 国際協力・ODAについて

ホーム > 事業・プロジェクト > 運輸交通 > 自動車(バス・大型車)の整備人材育成及び還流サイクルに向けた環境整備

ページを共有する

[t](#) [f](#) [in](#) [✉](#)

## 事業・プロジェクト

世界が抱える課題への取り組み

- ▶ 教育
- ▶ 保健医療
- ▶ 水資源
- ▶ ガバナンス
- ▶ 平和構築
- ▶ 社会保障
- ▶ **運輸交通**
- ▶ 情報通信技術
- ▶ 資源・エネルギー
- ▶ 経済政策
- ▶ 民間セクター開発
- ▶ 農業開発/農村開発
- ▶ 自然環境保全
- ▶ ジェンダーと開発
- ▶ 都市開発・地域開発
- ▶ 環境管理

## 運輸交通

### 自動車(バス・大型車)の整備人材育成及び還流サイクルに向けた環境整備

#### ニュースリリース

- 第1回「自動車整備における外国人材受入・育成に向けた国内連携勉強会」勉強会を開催します。(2022年3月)
- 自動車整備×技能実習生等 受入のための教材、5言語が完成！(2022年2月)
- [JICA中部「自動車整備関係技能実習生等責任ある受け入れパイロットプロジェクト報告会」を開催しました。\(2021年6月\)](#)
- [自動車整備×技能実習生等受入のための教材を作成しました。\(2021年5月\)](#)

#### 背景

JICA社会基盤部では、途上国における公共バスの運転・整備スキルの向上、運行管理能力の強化、経営改善支援等を進めてきました。そのためには国内バス事業者の協力が不可欠ですが、国内のバス業界においても運転士や整備士といった人材の持続的な確保や育成が課題となっているとの声が聞こえていました。特に整備士に関しては、バスのみならず、国内の自動車整備業界全体の課題として、就職を志望する若者の減少に加え、高齢化に伴う引退もあり、向こう5年間で1万3,000人の整備士が不足するとも言われています。



# ありがとうございました

17 パートナースhipで  
目標を達成しよう



4 質の高い教育を  
みんなに



8 働きがいも  
経済成長も



3 すべての人に  
健康と福祉を



11 住み続けられる  
まちづくりを

